

もろともに あはれと思へ 山桜
花よりほかに 知る人もなし

春の夜の 夢ばかりなる 手枕に
かひなく立たむ 名こそをしけれ

心にも あらで憂き世に ながらへば
恋しかるべき 夜半の月かな